



裏磐梯だより

No. 87

2017年11月



▲紅葉が映える柳沼

裏磐梯では、紅葉の時期が終わり、冬鳥の姿もみられるようになってきました。また、落葉樹の多くは文字通り葉を落とし、木々の冬支度を感じることもできます。

写真は柳沼ですが、この沼の水質は中性で、一般的な池や沼と同様の水質をしています。そのため、生育するプランクトンの種類や量が多く、水の色は不透明な薄い緑色です。水は、いくつもの溪流が流れ込んでいる弥六沼やろくから、父沼、母沼を通して流れてきます。紅葉が美しい柳沼ですが、五色沼湖沼群のなかでも凍りやすい沼で、これからの季節は今までと違った表情で私たちを楽しませてくれます。

これから静かな冬がやって来ますが、裏磐梯には冬にしかみられない美しい景色がたくさんあります。グリーンシーズンとはまたちがった魅力のある五色沼湖沼群においでになってはいかがでしょうか？

寒くて厳しい冬は、多くのいきものたちにとってお休みの季節です。しかし、そんな冬の時期に発生して繁殖する「フユシャク」と呼ばれるシャクガ科に属する蛾のグループが存在します。



実際の大きさ



メス

11月下旬 交尾中のクロスジフユエダシャク (左) オス (右) メス

フユシャクのココがおもしろい!

冬という変わった季節に活動するフユシャクには、変わった特徴がいくつかあります。

イチモジフユナミシャク



♂



♀

チャバネフユエダシャク



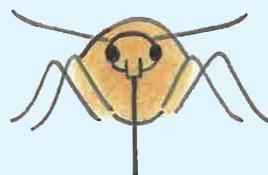
はね
翅がある



はね
翅がない・小さい

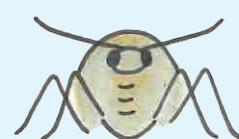
メスは飛べない代わりに、おしりから性フェロモンを出してオスを呼びます。そしてメスは、歩くのが速いです。

多くの他の蛾



こうぶん
長い口吻

フユシャク



こうぶん
口吻がない・小さい

成虫のときのエネルギーの多くは、幼虫のうちに体のなかにたくわえておいたものです。

謎が多いフユシャク

このような不思議な特徴は、フユシャクが冬という季節に適応しながら進化してきた結果と考えられています。はっきりとした理由はわかりません。一体どうしてなのか…考えてみましょう!

おまけ フユシャクだけじゃない! 晩秋・初冬の蛾たち フユシャク以外にも寒い時期に活動する蛾がいます。



ケンモンミドリキリガ



カバエダシャク



ウスズミカレハ



クシヒゲシャクチホコ



小野川不動滝



2017年11月2日 晴れ

小野川不動滝・小野川湖畔探勝路

小野川不動滝のすぐそばには、不動明王が祀られています。なぜここに不動明王が祀られているのでしょうか？

不動明王とは、五大明王の主尊で、大日如来の命を受けて魔軍を撃退し、煩惱を断ち切り、諸願を成就させ、密教の修験者を守護し、修行を成就させる仏さまです。また、仏教の仏さまのなかでも、観音さまや地蔵さまとともに、「お不動さん」の呼び名で親しまれるほど人気の高い仏さまです。

奈良時代には、山岳にこもって修行をし、修験道の祖と称される役行者のような人物も現れてきました。平安時代になると、密教の修験者たちは競って山岳で修行しました。彼らは山に伏して修行するところから山伏とも呼ばれました。修験道の基本的な考え方は、修行する山岳の中心に不動明王が住む聖地があり、その霊力を体得しようとするところにあります。もともと不動という言葉は動かない大山をさすので、不動明王は山の守護神として修験者の本尊にふさわしい存在なのです。



▲滝つぼ付近からの小野川不動滝

小野川不動滝では、山岳信仰が盛んだった昔、不動明王が住む聖地として、多くの修験者が修行の場所としたことが名前の由来になり、不動明王が祀られたのでしょう。落差約25m、水量は一日6千トンもありますが、滝つぼのすぐ近くまで行くことができます。春は新緑、夏は涼しく爽やかで、秋は紅葉とのコントラストが美しく、冬はスノーシューを履いて、真っ白い雪のなかの滝を鑑賞することができます。季節によっていろいろな表情をみせてくれますので、何度も訪れたいくなる滝ではないでしょうか。



ようこそビジターセンターへ

「裏磐梯の噴火前と後の立体地形図」をみよう！

ビジターセンター展示室の中央に、磐梯山周辺の明治の噴火前と後の立体地形図があります。噴火前後の地形の変化がわかり、現在の植物・動物分布等のベースにもなる資料です。

これによると、現在の五色沼湖沼群の位置は、噴火前の旧桧原川の谷（右下図の青線部）にほぼ一致しています。噴火前に低地だったところが今も低地のまま湖沼群となっているのです。これは、南にそびえていた小磐梯方面からやって来た岩なだれの大部分が谷を軽々と乗り越え、さらに北の曾原・狐鷹森地区まで広がったためであることを示します。そこに小磐梯山麓末端の湧水などが流れ込み、湖沼群となったようです。岩なだれの勢いがとてつもなくすごかったことがうかがえます。その他にもいろいろなことが読み取れる立体地形図を、まずはじっくりご覧ください。



▲噴火前後の立体地形図



▲噴火前の小磐梯山北側の地形

講 演会を開催します！

今年度は、福島大学共生システム理工学類教授である黒沢高秀氏をお招きし、講演していただきます。

テーマ『裏磐梯の本質的価値を探る～独特の水質、水生植物、人為と自然が織り成した植生と景観～』

日時：11月30日（木）13:00～

会場：裏磐梯ビジターセンターレクチャールーム

参加費：無料

申し込み方法：事前に裏磐梯ビジターセンターまでお電話で

お申し込みください。（電話 0241-32-2850）

※定員 40 名に達し次第、締め切りとなります。



わ くわく散歩

スタッフがビジターセンター周辺を案内します。雪が積もったら、スノーシューでの散策が楽しめます。

受付時間：随時

所要時間：30 分程度

参加費：100 円

スノーシューレンタル代：500 円

長靴レンタル代：200 円

開 館時間変更と年末年始休館

◆12月1日から開館時間が9:00～16:00に変わります。

※11月30日までは9:00～17:00

◆年末年始は12月29日～1月3日まで休館します。



ビジターセンターの窓から

諸行無常ではあるけれど、また冬が来る。（クリリン）
宇宙は-100℃や-200℃の世界なので、暖かいと思わなきゃ！（ターサン）
雪が積もるまでが寒いです。（はるるん）
初めての裏磐梯の冬、乗り切らねば。（さはらん）



ビジターセンター周辺＊いきもの暦

カラ類の混群がみられます。



コガラ



エナガ



ヤマガラ



ヒガラ



ゴジュウカラ



コマユミ



シジュウカラ



カラマツ



ツルマサキ



ツルウメモドキ



フユノハナワラビ



オオウバユリ



マユミ



ミズバショウ



ナナカマド



ツグミ

《編集・発行》裏磐梯ビジターセンター自然体験活動運営協議会 2017/11/24 ※裏磐梯だよりの営利目的での使用をお断りします。
定期購読のお知らせ ご住所とお名前を明記の上、82 円切手 6 枚（奇数月発行 1 年間分）を同封し裏磐梯ビジターセンター宛にご郵送ください。

磐梯朝日国立公園 裏磐梯ビジターセンター

〒969-2701
福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峯 1093

開館時間 9:00-17:00（12月からは9:00-16:00）
休館日 火曜日 入館無料

TEL 0241-32-2850 FAX 0241-32-2851
ホームページ <http://www.urabandai-vc.jp>